異文化間心理学Ⅰ　　鈴木一代

授業概要

グロバー化のなかで、文化との関係でひとの「こころ」をとらえることの重要性が認識されている。異文化間心理学は、文化とひとの「こころ」に着目する、比較的新しい心理学の分野であり、文化・社会・歴史的要因が人のこころの形成に与える影響を体系的に把握しようとする。ここでは、文化によるひとの行動の差異や普遍性、さらに、異文化接触・異文化体験や多文化（複数文化）環境において生じる心理的問題(現象)を理解できるように講義する。

授業計画

第１回	ガイダンス（授業概要、講義の進め方、評価方法、注意事項など）
第２回	異文化間心理学とは
第３回	文化と心理学１　－ 文化の定義
第４回	文化と心理学２　–研究方法の問題
第５回	異文化間心理学の基礎　–多文化社会のさまざまな人々
第６回	異文化間心理学の基礎　–多文化社会の問題点
第7回	異文化間心理学の理論　–比較文化的視点１　自己と文化
第８回	異文化間心理学の理論　–比較文化的視点２　集団主義・個人主義
第９回	異文化間心理学の理論　–比較文化的視点３　感情と文化
第 10 回	異文化間心理学の理論　–比較文化的視点４　認知と文化
第 11 回	異文化間心理学の理論　–比較文化的視点５ 原因帰属と文化
第 12 回	異文化間心理学の理論　–異文化接触の理論
第 13 回	異文化間心理学の理論　–文化間移動の理論
第 14 回	異文化間心理学の理論　–文化的アイデンティティの理論　(国際結婚の場合)
第 15 回	異文化間心理学の理論　–文化的アイデンティティの理論　（国際児の場合）
第 16 回	期末試験
	※授業の際に、異文化背景をもつ人を招く場合もある

到達目標

・「異文化間心理学Ⅱ」を合わせて受講することによって、文化・社会・歴史がひとのこころの形成に及ぼす影響について把握し、異文化間心理学についての基礎知識を習得する。
・国際的視野にたって、文化・社会・歴史とひとのこころとの関係を理解できるようにする。

履修上の注意

・国際情勢、異なる文化、および異なる文化的背景をもつ人々について興味があることが望ましい。
・「心理学概論Ⅰ」および「心理学概論Ⅱ」を履修していることが望ましい。

予習復習

講義内容をより深く理解するために復習をしてほしい。

評価方法

授業態度（10%)、授業中の提出物（20%）および試験(70%)。（詳細については、第 1 回のガイダンスで説明する。）

テキスト

必要に応じて、資料等を配布する予定である（第 1 回のガイダンスで説明する)。